

三重県男女共同参画センター
フレンテみえ
フレンテとはスペイン語で
「前向き」という意味です。

Frente

vol.55
2013.10

秋！すすむとき！

特集！

いよいよ開催！

全国女性会館協議会

第57回 全国大会 in 三重

「対談」大石 静 × 永井 愛

&

男女共同参画フォーラム

くみえの男女2013く

「鼎談」桐竹里佳 × 吉田大樹 × 麓 幸子

「もっと知りたい！
わたしのカラダ in 三重」
直前インタビュー！

高見陽子さん

フレンテみえHP「参画ゼミ」特別掲載！
～男らしさの縛りを解きほぐす～
吉岡俊介さん

Report! 夏のフレンテ・イベント

M祭!2013

二兎社「兄帰る」アフタートーク

フェミニストカウンセリング講座

地域リーダー養成講座

「そうぶんが避難所に!？」

～いますぐ考えておきたい災害対策～

スペシャル・エッセイ

ノンフィクション作家 中村 安希

「世界を旅して、女性の生き方をみる」
～第3回～



男女共同参画フォーラム～みえの男女2013～ 平成25年11月3日(日)10:30～16:00

最近、『女性の活躍推進』といわれていますが、現実にはなかなか進んでいない状況があります。

人々が置かれる状況や、ライフスタイルの多様化により、仕事と生活との両立が困難で、また特に女性は就労を断念せざるをえない場合も未だ多くあります。これらの背景には、現在も「男は仕事、女は家庭」が成り立った時代の制度や仕組み、環境、意識が根強く残っていることも要因としてあるのではないのでしょうか。

そんな状況の中で、制度や仕組み、環境が整備されるのを待つだけでなく、自分の望む働き方、生き方がどうすればできるか、このフォーラムで考えたいと思います。

学生さんから今まさに働いてる方、皆さまのご参加をぜひお待ちしております！

鼎談「未来への提言＊働き方はワタシがつくる」



きりたけりか
桐竹 里佳さん

日産自動車株式会社
ダイバーシティペロップメントオフィス室長

1993年に筑波大学 第一学群 社会学類を卒業後、(株)社会調査研究所(現 ㈱インテージ)に入社。主に国内大手消費財メーカーをクライアントとしたカスタマーリサーチ全般を担当する。2003年に日産自動車株式会社に転職し、市場情報室に所属。2006年からは、カスタマーインサイトスペシャリストとして、日産セレナ、エルグランド等のミニバンやティアナなどのセダンを検討されるお客様ニーズを分析、またブランド・マスコミュニケーション等のマーケティングリサーチも担当した。その後、欧州日産市場調査室臨時部長代理、組織開発部の主管を経て、2011年より現職にいたる。

1977年7月東京生まれ。埼玉県鴻巣市在住。2003年3月日本大学大学院法学研究科政治学専攻修了。2003年4月～12年6月「労働安全衛生広報」「労働基準広報」(労働調査会発行)記者。労働関係の専門誌記者として、ワーク・ライフ・バランスや産業保健(過重労働・メンタルヘルスなど)の問題を精力的に取材。働き方や生き方の変革を訴える。08年7月～FJ会員、10年7月～FJ理事を経て、12年7月より現職。12年4月より、内閣府「子ども・子育て会議」委員、及び厚労省「イクメンプロジェクト」推進委員会委員。3児(03、06、08年生まれ)のシングルパパ

よしだ ひろき
吉田 大樹さん
NPO法人ファザーリング・
ジャパン代表理事



コーディネーター
ふもと さちこ
麓 幸子さん
日経BPbizライフ局長、
日経ウーマン発行人

1962年秋田県生まれ。1984年筑波大学卒業。同年、日経BP社入社。1988年『日経ウーマン』創刊に携わる。2006年日経ウーマン編集長。2012年bizライフ局長に就任、日経ウーマン、日経ヘルスなど3媒体の発行人になる。筑波大学非常勤講師。法政大学大学院経営学研究科修士課程在籍。ダイバーシティマネジメント、女性活用、人的資源管理論などを研究する。経済産業省「ダイバーシティ経営企業100選」サポーター。『とくダネ!』コメンテーターなどメディア出演豊富。一男一女の母。著書に、長男の就活経験をもとにした『就活生の親が今、知っておくべきこと』(日経新聞出版社)などがある。

11月2日(土)・3日(日)

特定非営利活動法人全国女性会館協議会第57回全国大会IN三重

パーソナル イズ ポリティカル

「今こそ、Personal is Political(ジブンの問題は

全国女性会館協議会は、全国の女性関連施設が加盟する全国のネットワーク。男女共同参画社会の形成の促進に寄与することを目的に、研修事業・情報発信事業等、様々な活動を行っています。

年に1回実施している全国大会を、ついに三重県で初開催します！

オープニングイベントでは、脚本家の大石静さんと劇作家・演出家の永井愛さんによる夢の対談が実現！「自分が選んだ道を進むために必要なこと」をテーマに、演劇やドラマ等作品で描いてきた人物や取材してきた人々、またご自身の生き方、働き方についてお話いただきながら、今の社会を見つめ、これから生きていくために必要なヒントを探ります。

また、1日目は「第7回事業企画大賞」として、全国の女性関連施設の職員が、男女共同参画社会の実現に向けて、日々創意工夫して行っている事業について、優秀な企画を表彰し、事例発表を行います。

内閣府、文科省、全国女性会館協議会による「男女共同参画と防災・復興」最新情報も必聴です。

2日目は、4分科会を実施。先進的取組の事例発表や、女性関連施設職員等の研修・交流の場として開催します。

対談は、無料。分科会等は、非会員の女性関連施設職員、行政担当者、一般の方にもご参加いただけます(参加費：1日500円、2日間1,000円)。



大石 静さん



永井 愛さん

ホールイベント(多目的ホール)

13:30～14:00 あいさつ、県の現状と取組

14:00～16:00 鼎談「未来への提言＊働き方はワタシがつくる」

ワークショップ(10:30～12:30)

①「男女が働きやすい職場づくり」主催：三重県雇用経済部雇用対策課

どうすれば男女が働きやすい職場になるの？昨今、女性が能力を発揮できる社会づくりがテーマとなっていますが、そのためには男女双方の就労環境を見直す必要があります。県内企業の先進的な事例と意見交換を通じ、当テーマについて一緒に考えてみませんか？

②「地域における意思決定の場への女性の参画 ～実践 三重の加速プラン～」主催：男女共同参画みえネット

平成23年度、平成24年度の2ヶ年、新しい公共の場づくりのモデル事業として、5市における意思決定の場への女性の参画促進応援プランに取り組んできました。今年度は、この事業を更に地域において実践している具体的な事例を紹介し、有効な実践方法を検討します。

③「男の料理教室が考える『食と健康』」主催：男の料理教室 ひろみ会

男性がどのように高齢社会に対応していくか、料理を通じて話し合しましょう。

パネル展(終日)

三重県内市町の男女共同参画の取組状況展示等、さまざまな展示を行います。

①地域における意思決定の場への女性の参画 ～実践 三重の加速プラン～(男女共同参画みえネット)

②土に生きる ～三重の農業女性の夢を～(三重の女性史研究会)

③三重大学の男女共同参画の推進(三重大学男女共同参画推進室)

相可高校のお弁当

今年の昼食弁当は、ドラマ「高校生レストラン」でお馴染みの相可高校調理クラブのお弁当です。先着順、限定170個の予約販売。

800円(お茶付き)。申込締切日…10月26日(土)。

東日本大震災女性支援販売

農作物、ジャム、まけないぞうタオル、手づくりたわしなど、被災地の女性を支援する物産を販売します。

社会の問題)～これからの私たちに必要な視点とアクション)

平成25年11月2日(土) 13:00～17:00(開場12:30)

- 13:00～13:30 開会行事
- 13:30～15:30 対談「自分が選んだ道を進むために必要なこと」
- 15:40～17:10 事業企画大賞表彰・事例発表
「男女共同参画と防災・復興」最新情報
- 17:10～17:45 館内ツアー
- 18:00～20:00 情報交換会

11月3日(日) 9:00～11:00 分科会

- A: 個別課題から事業化する～新しい手法での男女共同参画の発信(事業企画)
事例発表／三重県男女共同参画センター「フレンテみえ」
- B: 女性関連施設のブランド化・見える化(広報・情報発信)
事例発表／公益財団法人プラン・ジャパン
- C: 女性関連施設にとっての相談事業の役割～連携・協働(相談)
事例発表／東海地区「男女共同参画をすすめる相談事業」研究会
- D: 中間管理職等リーダーに必要な力とは(マネジメント)
事例発表／(公財)横浜市男女共同参画推進協会

申込み:対談は、電話・郵送・FAX・持参・HP・E-mailにて先着順に受け付けます。分科会等に参加ご希望の方は、別途「参加申込書」にてお申込みください。【託児有り】要事申込(0歳～小学3年生程度、1日1,000円/1人、10月26日(土)締切)

フレンテみえのホームページでは、県内外の専門家によるWebだけの講座「参画ゼミ」を掲載しています！
今回はその中から、吉岡俊介さんに執筆いただいた参画ゼミ「～男らしさの縛りを解きほぐす～」
全3回の第1回講座を、情報誌Frente読者の皆さんに特別にお届けします。

フレンテみえHP「参画ゼミ」2013年 6～8月掲載 ～男らしさの縛りを解きほぐす～

第1回「男の鎧」

シニア産業カウンセラー/
キャリア・コンサルタント/
吉岡 俊介



「吉岡先生、どうぞよろしくお願いいたします」

私が部屋に入ると来談者は席を立ち上がり深々と頭を下げる。私が開設しているカウンセリング・ルームに来る男性たちは総じて礼儀正しい。ビジネス街の中心に立地していることもあり、仕事帰りや仕事の合間に来る背広姿のビジネス・パーソンも多い。私が席につくまで直立不動で待機しているひともいて、中には名刺を差し出し、これから商談が始まるような雰囲気を出している場合もある。

『ああ、このひとも男の鎧をしっかりと身に着けているのだな』

かつての自分の姿を来談者に重ね合わせつつ、私はカウンセリングを始める。

今から十数年前、私は二十四年間勤めていた会社を辞めた。当時はリストラの嵐が吹き荒れ、それが自分に襲いかかる気配を察知し、さっさと早期退職の道を選んだのである。それまで組織の中で順風満帆の道を歩んでいるかに見えた私が、他の同僚に先駆けて辞表を提出したことに周りは驚いた。そのときの私の心境は「辞めさせられる前に辞めてしまえ」「打ちひしがれた思いで会社を去るよりも、男らしく潔く散る」という思いにとりつかれていたのである。弱音を吐かずに最後まで男の美学にこだわり続けたことを「お前らしい辞め方だ」と評してくれる者もいた。しかし実は心身ともにボロボロだったのである。

最終出社は胸を張って会社をあとにした。でも帰宅すると全身から力が抜けてしまった。そして家族の前で涙がとまらなくなったのである。男が泣くのは女々しいと思い込み、人前で泣いた記憶がなかった自分なのに、涙を抑えることができない。そんな私を妻も子どもも優しく受け止めてくれた。私がまどっていた

「男の鎧」が少しはがれ落ちた瞬間であった。

退職直後は落ち込みが激しく何もする気にならなかった。それまで自分を支えていた仕事中心の価値観が崩壊し、うつ状態に陥っていたのである。そんなある日、妻が新聞で男性市民グループの集いの開催案内を見つけて私に知らせてくれた。長年、市民活動に取り組んできた妻は、男性市民グループの情報にも詳しく、その分野で活躍している著名な人たちにもその場で会えるかもしれないと言う。見ず知らずの男たちの中に入ることにはやや抵抗感を抱きながらも、男性社会の中で生きにくさを感じている男たちが話し合う場というものに私は興味をもち、少しだけ覗いてみる気持ちになった。

会合はある市の男女共同参画センターで開催されたのだが、私はうかつにも電車を乗り間違え、30分ほど遅れて会議室に入った。十数人ほどが口の字型に組まれたテーブルの前に座り、当日のテーマ報告者が発表をしている最中であつた。

会社員であつた頃、会議は常に時間厳守であつた。遅れてきた場合は、出席者からの射るような視線をあびながら、肩身の狭くなる思いで席につかねばならない。そんな経験を思い出し私は恐縮の体で席を捜していると、参加者全員がにこやかに空いている席を示してくれた。

しばらくして報告者の話が終わると、司会の男性が「初めてのカタもおられるので、みなさん自己紹介をしましょう」と、わざわざ私のために出席者の紹介の場を設けてくれたのである。

参加者の中には妻から聞いていた著名人の姿もあつた。その他、男女共同参画社会実現に向けて男性側からの視点で積極的に活動を推進している面々が顔をそろえていた。退職後、まだ数ヶ

「もっと知りたい! わたしのカラダ」 直前インタビュー!

10月は乳がん啓発月間。フレンテみえでは今年度も女性の生涯の健康を考える講座を開催します!

今年度はウィメンズセンター大阪、大塚製薬株式会社との共催で、全国15都市を巡る「もっと知りたい! わたしのカラダ」キャラバンの一つとして開催します。そこで、今回の全国キャラバンを企画した一人、「ウィメンズセンター大阪」代表の高見陽子さんにお話をうかがいました!

今回の全国キャラバンを行うに至った経緯を教えてください。

一生つきあう女(わたし)のカラダと心。歴史のなかで、カラダと性の問題は特に、当事者の意思が大切にされることはありませんでした。ウィメンズセンター大阪で開設当時からはじめた電話相談「女・からだ110番」によせられる日本全国からの女性たちの声はまさに、その実態をあきらかにしています。

人生を主体的に生きるためのあれこれを、全国の女性たちと話し合いたくてキャラバンを企画しました。

高見さんは女性が自身の健康を考える上で大切なことは何だと思いますか?

自分の今を知ることは大切だとも思います。それは身体の構造・働き・

月しか経っていなかった私の感覚としては、その顔ぶれは民間企業であれば部長や支店長もしくは役員クラスに匹敵するようないひたちに見えた。そしてこういう場には初参加で、活動についてまったくの初心者である私は新入社員同様に小さくなりながら控えめに自己紹介をした。

ところが、私の自己紹介が終わるとみなからいっせいに「あとで吉岡さんの話をもっと詳しく聞きたいなあ!」という声があったのである。

その男性たちは私を温かく迎え入れてくれた。それまでに私が知る男社会とは上下関係が全てであったが、ここには全く違う世界があった。上下の序列はなく、互いを尊重し、互いの気持ちに寄り添い、あるがままの自分を出していけるひとときがあった。肩書も看板も関係ない。このような場が世の中に存在することに大変な驚きを感じるとともに、私はこれまでに経験したことのない居心地のよさを抱いたのである。

当日のテーマについての意見交換が一段落すると、今度は私の番になった。つい最近まで企業戦士であった自分について語ろうとしたが、思うように言葉が出てこない。会社ではあれほど流暢に商品説明ができたのに、自身のことを飾ることなく、自分の言葉で話すのは難しかった。考えてみれば、これまでに自分のことを本音で語る機会は全くなかったのである。自分の思いや感情をどう表現したらよいのか迷った。「ああ、自分はなんてしゃべるのがへたくそなんだろう」と身の縮む思いであったが、たど

たどしい語りにみな熱心に耳を傾けてくれた。次第に私の緊張は和らぎ、私が身に着けていた「男の鎧」も解きほぐされていった。そして彼等との出会いは私を元気にしていった。この経験は今の私の活動の原点になっている。

上下関係のある競争社会の中では、弱音を吐くことは戦線から離脱する落伍者の烙印を押されることのように、かつての私は感じていた。本心では弱音を吐きたくても、そのような姿を見せるわけにはいかない。だから男の鎧をしっかりとまとい、建て前の言葉を選んで自分を優位に見せようとする。しかし本音に蓋をしてしまい、常に建て前を優先していると息苦しくなっていく。そのストレスを抱え込みすぎるとうつ状態になり、他者に向けると暴力につながることもある。だからこそ男の鎧を少しでも脱ぐことが心身の健康を保つ上でも、気持ちの良い人間関係を築く上でも大切であることを実感する。その第一歩が上下の序列に関係なく、看板や肩書とは無縁の場において、自分の言葉で自身の本音を語ることである。

カウンセリング・ルームの来談者は、カウンセリングの回を重ねるごとに男の鎧を少しずつはがしていく。そして私が部屋に入ると挨拶は次のように変化している。

「吉岡さん、今日もよろしくお願いします!」

★吉岡さんの「参画ゼミ」は全3回です。第2・3回は、フレンテみえのホームページに掲載しています。ぜひご覧ください!
<http://www3.center-mie.or.jp/center/frente/sankaku/index.html>

吉岡 俊介さん プロフィール

1954年東京都生まれ。シニア産業カウンセラー、キャリア・コンサルタント。1977年慶應義塾大学法学部卒業後、東京海上火災保険株式会社に入社。主に災害被災者の心のケアや民事紛争を中心とする損害サービス部門に従事。24年間の勤務を経て2001年に早期退職。その後、大阪のメンズセンタースタッフとして勤務しながら、男性学、男女共同参画、フェミニズムなどを学び、男性の悩み相談に関わるようになる。現在は地方自治体の男性相談専任カウンセラーとして活躍しながら、個人でもカウンセリング・ルームを開業。著作に『チビポットシンドローム 彼との関係がきつとよくなる!』(講談社)、『心が折れそうなビジネスマンが読む本』(ソフトバンク新書/中森勇人著)の監修等も務めている。

こちらでも参加申込受付中! 昨年実施して大好評だった、吉岡俊介さん講師の男性講座が帰ってきます!

男性講座 ～これからの人生を“生きる”ために～ 定年*男の「スターティング・ノート」ふたたび!

【日時】10月26日(土) 13:00~16:30 【会場】三重県男女共同参画センター「フレンテみえ」2階 セミナー室A

リズム・感情を知ることで、なにが自分らしく生きることを阻んでいるのかを知ることができます。

最後に講座参加者、 三重の皆さまへメッセージをお願いします!

三重県のみなさん、講座に参加してくださるみなさん、「ワタシを大切に、ワタシの人生を生きる」ことについてカラダと性から一緒に感じてみませんか?

たくさんのご参加をお待ちしています!

10月12日(土)開催

「もっと知りたい!わたしのカラダin三重」

時 間:13:00~16:30(12:30開場)

会 場:三重県男女共同参画センター「フレンテみえ」2階 セミナー室A

13:10~「女性のライフサイクルとホルモンとの付き合い方」

講 師:村松 温美さん(市立伊勢総合病院 産婦人科部長)

14:20~「からだと心の自己決定権~私のからだは私のもの」

講 師:高見 陽子さん(ウィメンズセンター大阪)

15:30~ セルフケアを学ぶ(体験ブース)

三重県立看護大助産学生によるハンドマッサージ・セルフケアを学ぶ
ブースやカラダ個別相談、グループでのカラダ悩み相談ブースなど。

* Event Report! *

8月4日(日) キッズ・アート・フェスティバル M祭!2013

「テクノガールのカガク工房」

フレンテみえでは、女性研究者連携協議会(パールネットみえ)と連携して、「テクノガールのカガク工房」を開催しました。前半は、女性研究者に教えてもらいながら、子どもたちは光の万華鏡をつくりました。後半は三重大学教育学部学生によるワーク。自然の中にある葉っぱや石などを集めて、自分だけのパレットをつくりました。

日本の研究者に占める女性割合は14.0%と、諸外国に比べて極めて低い水準です。女性研究者の姿を体験的に知ること、性別に関わらずやりたいことに挑戦していいんだと子どもたちが感じてくれればと思います。

「増殖プロジェクト ナナに捧げる生き物」

今年のM祭!のスペシャルプログラムとして、マレーシア出身の女性美術作家、タン・ルイさんによるインスタレーションアート(※1)を実施しました!身近な材料である「洗濯ばさみ」を使って、子どもたちがさまざまな生き物を創作し、フレンテみえのナナ(※2)を囲んで広場に展示しました。日常に見慣れたものが、まったく新しいオブジェへと変容する様子を子どもから大人まで多くの方に体験していただき、カラフルな作品が並ぶ広場は、盛況な賑わいとなりました。

(※1)現代美術の表現手法・ジャンルの一つ。ある特定の室内や屋外などにオブジェや装置を置いて、作家の意向に沿って空間を構成し変化・異化させ、場所や空間全体を作品として体験させる芸術のこと。

(※2)フランスの女性美術作家、ニキ・ド・サンファルの作品・女神「ナナ」シリーズの一つで、知識の広場に展示されている。



9月10日(火) 二兎社公演「兄帰る」アフタートーク

岸田國土戯曲賞を受賞した二兎社「兄帰る」が14年ぶりに上演されました。二兎社の三重公演は3年連続。終演後には作・演出、永井愛さんのアフタートークが行われ、立見を含めて約100名の皆さまにご参加いただきました。

この作品は永井さんが当時、冷戦も終わりこれからは個人の生き方が注目されると感じたことから、日本の建前と本音の社会、正論に対する圧力について描こうと考え生まれたとのことですが、永井さんは、この作品を書いた時より今の方が、権力を持っている人間になびく世の中になっているように感じる。人は何かを選択するとき「自分がどうありたいか」ということよりも世間体や力関係で物事を選択していく傾向にあり、そういう誰にでもある小さな種が恐ろしい事件を形づくるのではないかと話されていました。

この作品が生まれたのは、ちょうど「男女共同参画社会基本法」が施行された年でもあります。個人がお互いに尊重され、一人ひとりが進みたい道を進むことができる社会とは何かを考えさせられるアフタートークでした。



「フェミニストカウンセリング講座」(全6回) 好評開催中!

フレンテみえでは、女性が抱えるさまざまな問題をジェンダーの視点で捉え、相談対応について学ぶことを目的に、全6回の「フェミニストカウンセリング講座」を開催しています。

相談にかかわっている人、相談員を目指す人が対象ですが、「自分のことを見つめたい」「友達の相談に乗りたい」などの理由で参加された方もいます。定員40名に対し、90名以上のお申込みをいただき人気の講座となりました。

第1回講座(7月)では、「現代社会におけるフェミニストカウンセリング」と題して、フェミニストカウンセリングの概要を川喜田好恵さんにお話をいただきました。第2回(8月)は「女性に対する暴力」をテーマに、フェミニストカウンセリングの視点でDV、セクハラ、ストーカーが起こる社会的背景や相談対応について、周藤由美子さんにお話をいただきました。この後も、「女性のこころとからだを理解する」「母娘関係」「女性の貧困~母子家庭の暮らしや母子の心理への理解~」「女性の精神疾患への理解」など興味深いテーマについて専門家をお招きし、じっくりと学習していきます。まだ参加可能な回もありますので、参加を希望される方はフレンテみえまでお問い合わせください。



8/10(土)~9/7(土)
連続講座(4回)

地域リーダー養成講座「そうぶんが避難所に!?!~いますぐ考えておきたい災害対策~」

講師・講座監修/浅野幸子さん、福田紀子さん(東日本大震災女性支援ネットワーク)

津市指定の避難所でもある三重県総合文化センターを題材に、誰もが安心・安全な「男女共同参画の視点での避難所運営」について考える連続講座を開催しました。

初回は「避難所運営体験」と「避難所運営ゲームHUG」を実施。体験では、大地震発生直後を想定し、参加者が食糧物資班、救護班など8つの班に分かれて活動を行いました。レイアウトを協議して段ボールを敷いたり非常食を調理し配給したりと様々な課題がありましたが、参加者それぞれ初対面の方どうしでチームをつくり、課題について考え行動していく様子は実際の被災時をイメージさせられ、大変貴重な体験となりました。

2回目からは「地域に活かす避難所ルール」を考える講義とワーク。避難所運営マニュアルの意義や要援護者支援、多様性配慮、地域の防災資源などを学びながら、施設利用方法(ハード)と運営体制(ソフト)の両面から理想的な避難所の姿についてディスカッションを交えながら考えていきました。

参加者からは、「理論+実践が有益だった」「ワークが短時間で残念だったが日ごろの準備の大事さがよく解かった」「学んだことを地域で発信したい」などの感想が寄せられました。

フレンテみえでは今後、この講座で得た情報やご意見、アイディアを基に、三重県総合文化センターの「被災時対応モデル(仮)」を作成し、公開する予定です。



ノンフィクション作家 中村 安希

『女性の社会進出』という言葉聞いて、あなたは何を想像するだろう。大都会のオフィス街を颯爽と歩く、オシャレなキャリアウーマンだろうか？働く女性を手厚くサポートし、高福祉社会を実現した北欧の国々はどうだろう。おそらく、そのどちらともイメージできるはずだ。ただし、社会に進出している女性たちは、都市以外にもたくさんいる。男女同権が進んだ欧米でなくとも、働いている女性というのは、実は世界中にたくさんいるのだ。

世界を旅して、まず驚かされるのが、街の風景に自然となじむ働く女性たちの姿。東南アジアを歩けば、小さな店を切り盛りする数多くのビジネスウーマンに出会う。タイやベトナムの街角で食べ物を売る人から、土産物屋や雑貨屋を経営する人。ビューティーサロンやレストランまで、彼女たちは様々な分野でビジネスを営んでいる。中でも、財産管理と相続権が女性にあるというラオスのある村では、宿泊施設や飲食店、渡り舟の管理・経営まで、すべて女性がやっていた。それらは、母から娘へと受け継がれた一族の財産。では、男性が何をしているかと言えば、母や妻の指示に従って建物を修理し、畑を耕し、船を漕ぐ。

彼女たちの中に『社会進出している』という意識は、おそらくない。ごく当たり前の生活の一部として、彼女たちは経済活動を営んでいる。そして、ひとたび見方を変えると、世界のミクロ経済の大部分が、こうした女性たちによって動いていることに気づかされるのである。

中村安希（なかむらあき）

ノンフィクション作家。

1979年京都府生まれ、三重県育ち。2003年、カリフォルニア大学アーバイン校、舞台芸術学部卒業。日本とアメリカで三年間の社会人生活をおくる。その後、二年間、47カ国をめぐる旅をもとに書いた『インパラの朝』（集英社）で09年、第七回開高健ノンフィクション賞を受賞。他に若き政治家たちへインタビューを試みた『Beフラット』（垂紀書房）、『食べる。』（集英社）『愛と憎しみの豚』（集英社）がある。

女性に対する暴力防止セミナー

～子どもをDVの被害者にも加害者にもしないために～

今年度は桑名市で、『DVと子ども』をテーマにセミナーを開催します。講演には、未就学児から大学生まで、15,000人以上の子どもたちに出前授業を提供してきたNPO法人SEANの遠矢家永子さんをお迎えし、DV加害者や被害者の心理について、DVを生み出す背景や子どもの育ち、DVの予防のためにできることなど、分かりやすくお話しいただきます。

講座では、昨年度フレンテみえで実施した「デートDV」に関するアンケート調査の報告も交えながら、身近にあるDVに気づくために、DVについて知り、私たちができることを考えていきます。

※デートDV…若年層の親密な関係における暴力

日時：11月23日（土）13:30～15:30
会場：くわなメディアライブ 1階 多目的ホール
講師：遠矢家永子さん

（特定非営利活動法人SEAN 副理事長）

料金：無料（定員100名）

※無料託児あり＜対象／生後6か月～未就学児＞

（事前申込制／受付期間10/23～11/15／

先着10名程度）

※要約筆記あり



自分で決める！

私の人生「女性のための離婚講座」

フレンテの相談室には、毎年離婚についての相談が最も多く寄せられています。特に法律の知識と経済的な自立は離婚を考える上で大きな課題です。昨年度開催した同講座には、たくさんの参加があり関心の高さがうかがえました。

今年度は、午前「離婚にまつわる法律～調停・養育費・財産分与・年金分割」、午後「離婚後の生活設計」をそれぞれ女性の弁護士、キャリアカウンセラー・ファイナンシャルプランナーにお話しいただきます。1日を通しての受講も、どちらかだけの受講も可能です。離婚について、知って、考えて、人生を選ぶための材料を提供します。

日時：12月14日（土）

・午前の部10:00～12:00 （さらに改行）

「離婚にまつわる法律～調停・養育費・財産分与・年金分割」

・午後の部13:00～15:00 （さらに改行）

「離婚後の生活設計」

会場：三重県総合文化センター内

講師：女性の弁護士（午前の部）

キャリアカウンセラー・ファイナンシャルプランナー（午後の部）

料金：無料（定員40名程度／先着順／10/10受付開始）

※託児あり（有料）＜対象／0歳～小学3年生程度＞

（事前申込制／受付期間10/10～11/30／子ども1人につき1,000円）

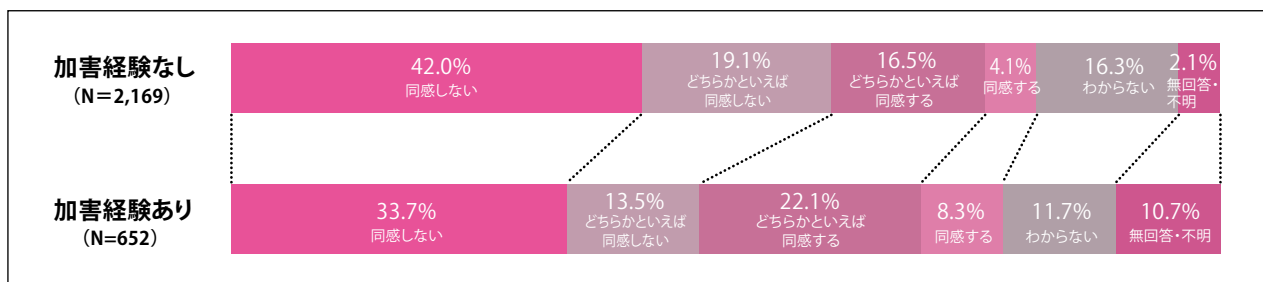


フレンテみえでは、平成24年度に三重県内で初めての大規模調査となる 「デートDVに関するアンケート調査」 を実施しました。その調査結果をシリーズでご紹介します。(第2回)

デートDV加害経験と固定的性別役割分担意識との関係

調査では、デートDVの加害経験と「男は外で働き、女は家庭を守るべきである」という固定的性別役割分担意識(以下、固定的意識)の関係を分析しました。

固定的意識に「同感しない」人、つまり固定的役割にとらわれていない人の割合は、「加害経験なし」(42.0%)の方が「加害経験あり」(33.7%)より高い結果となりました。一方、固定的意識に「同感する」人の割合は、「加害経験あり」(8.3%)の方が「加害経験なし」(4.1%)より高く、「加害経験なし」の人の方が固定的意識にとらわれていない傾向にあることが考えられます。



性別にとらわれない価値観の必要性

上記の結果から、デートDV防止に向けて、デートDVについて正しい知識を学習するとともに、固定的意識の解消が必要だと言えます。より早い段階から、若い世代が性別にとらわれない生き方や価値観を身に付けること、またモデルとなる大人や学校、地域、職場など社会のあらゆる場でデートDVを起こさせない社会づくり、男女共同参画の推進を進めることが重要です。

11月23日(土)桑名市で「女性に対する暴力防止セミナー～子どもをDVの被害者にも加害者にもさせないために～」を実施します。セミナーでは、本調査の報告も行います。詳しくは本誌6ページをご覧ください。

※本調査結果はフレンテみえホームページに掲載しています。

フレンテみえって、なに?

三重県の男女共同参画社会を推進する拠点施設として津市の三重県総合文化センター内に平成6年オープン。情報発信・研修学習・相談・調査研究・参画交流という「5本の柱」で、様々な事業を展開しています。ぜひ皆さま、お気軽にお立ち寄りください!

～詳しい情報はホームページまで～

フレンテみえ

検索

生き方・家族・人間関係・からだ・離婚・職場 などなど...
男女がともに自分らしく生きるために、様々な悩みの相談をお受けします

女性のための電話相談 秘密厳守・相談無料

フレンテみえ相談室 **専用ダイヤル 059-233-1133**

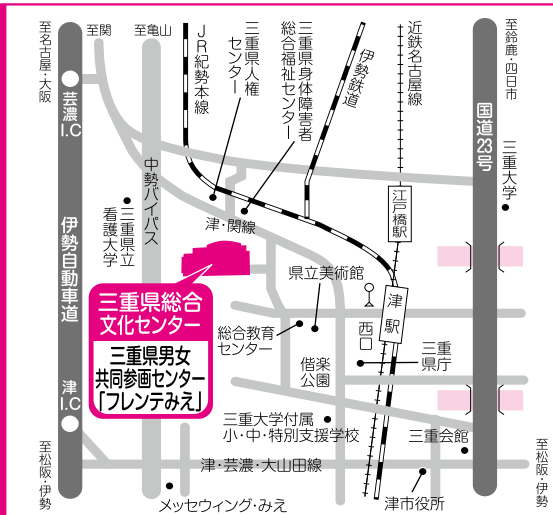
相談時間	曜日	月	火	水	木	金	土	日
朝 9:00~12:00	休館日	●	●	●	●	●	●	●
昼 13:00~15:30	休館日	●	—	—	●	●	●	●
夜 17:00~19:00	※	—	—	●	—	—	—	—

※ 祝日の場合「朝・昼」相談あり(翌平日が休館日)

※このほか、女性のための面談相談・法律相談からからだ相談と、男性のための電話相談を要約中詳しくは問合せください

フレンテみえ相談室のご案内
(切り取ってご利用ください)

三重県男女共同参画センターまでの案内



休館日 毎週月曜日 年末年始 (12月29日から1月3日まで)
交通 ■バス/津駅西口1番のりばから約5分
■徒歩/津駅西口から約25分
■自家用車/伊勢自動車道芸濃インターから約15分、津インターから約10分
※駐車場は1400台(無料)。できるだけ公共の交通機関をご利用ください。

発行 三重県総合文化センター
三重県男女共同参画センター フレンテみえ
〒514-0061 三重県津市一身田上津部田1234番地
TEL:059-233-1130 FAX:059-233-1135
URL <http://www3.center-mie.or.jp/center/frente/>
E-mail: frente@center-mie.or.jp

再生紙を使用しています。

Design: Graphica